

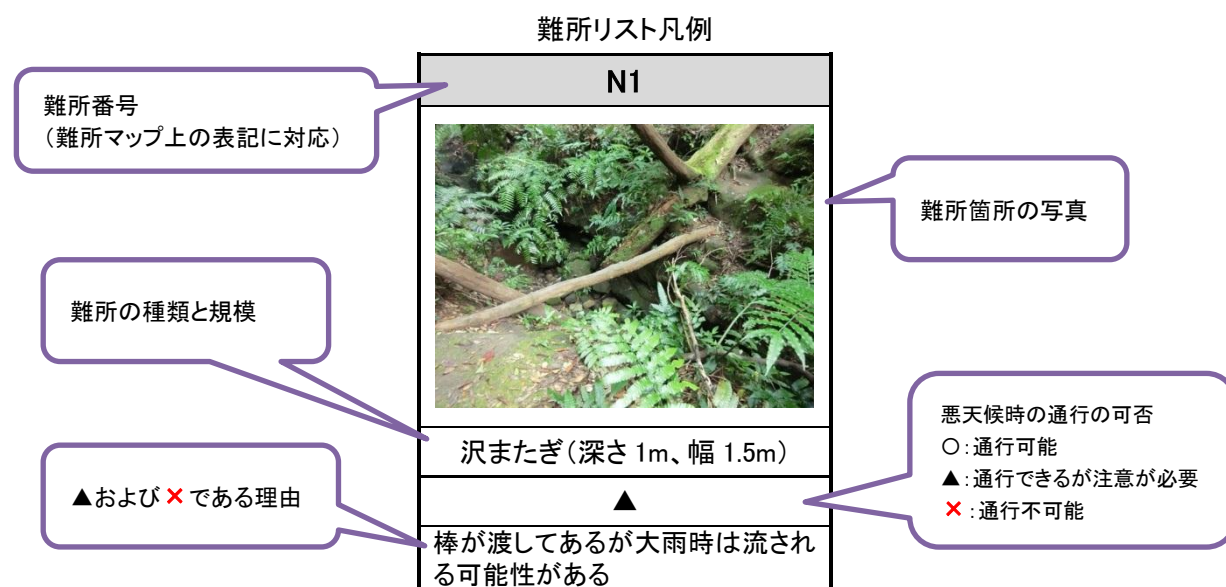
西表島横断道における難所リストの作成

西表島横断道において生じる事故については、一般観光客や登山初心者等が遭遇するケースが少なくない。その理由として、横断道横断の難易度に対して、装備や登山計画が不十分であることが挙げられる。こうした原因による事故を減少させるためには、事前に横断道登山の危険性についての十分な情報を発信し、1) 準備が不十分な登山者の入り込みを抑制すること、2) 登山者の適切な装備と登山計画の準備に資すること、が対応策の重要な側面であると考えられる。

そこで本調査では、横断道横断に際して、通常の歩行や装備では通行できない難所について、その位置と難所の種類、および悪天候時の通行の可否について現地踏査および有識者へのヒアリングによって記録し、難所リストを作成した。

難所として記録した箇所を選定基準は以下の通りである。

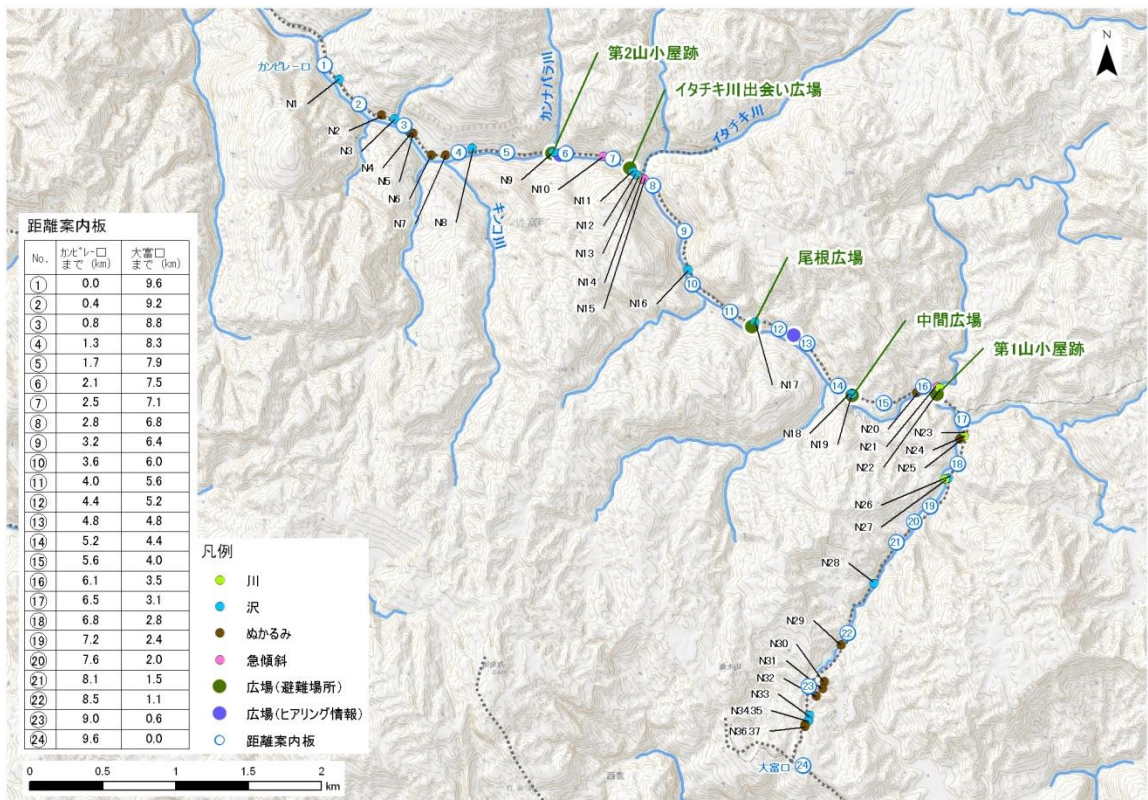
- 落下の危険性がある箇所
 - 溝をまたぐ際に、倒木など不安定なものを渡るような箇所
 - 通常の歩幅では渡れず、軽いジャンプなどが必要な箇所
 - 崖や岩場、ロープ場など手足を使って通行する必要がある箇所
- 天候によって、通行ができなくなる箇所、エリア
 - 増水により通行不能となる河川
 - 悪天候時に冠水するエリア
 - 大雨時、崖崩れや地滑りの危険があるエリア
- 通常の装備では通行に難がある箇所（長靴等が必要な箇所）
 - 河川の横断や沢上の歩行箇所
 - ぬかるみの歩行箇所



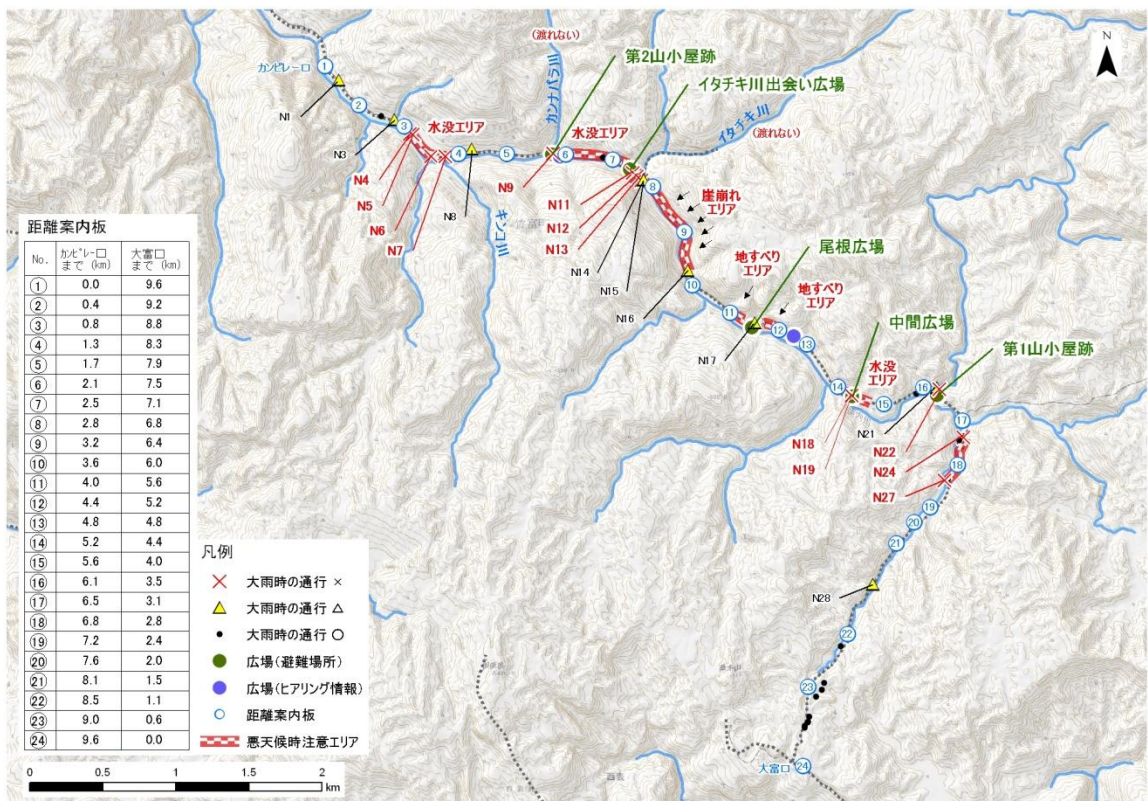
注) 調査時は晴天が続いていたため、写真の水量はかなり少ないレベルである点に注意が必要

緊急避難箇所候補地及び難所マップ




◇通常時









◇悪天候時









西表島横断道難所リスト




N1	N2	N3
		
沢またぎ(深さ 1m、幅 1.5m)	ぬかるみ(70m)	沢越え(2m)
▲	○	▲
棒が渡してあるが大雨時は流される可能性がある	—	増水時、踏み石が冠水する可能性がある




N4	N5	N6
		
ぬかるみ(2m)	ぬかるみ(5m)	ぬかるみ(10m)
×	×	×
悪天候時は冠水する。1~2mに達する場合もあり、通行不能。	悪天候時は冠水する。1~2mに達する場合もあり、通行不能。	悪天候時は冠水する。1~2mに達する場合もあり、通行不能。




N7	N8	N9
		
ぬかるみ(15m)	沢またぎ(1.5m)	沢越え(11m)
×	▲	×
悪天候時は冠水する。1~2mに達する場合もあり、通行不能。	増水時は、流れを渡る	増水時、通行困難




10	N11	N12
		
岩崖(高さ1.5m)	沢またぎ(1.5m)	沢またぎ(2m)
○	×	×
	流れ早く、踏み石がすべる、捕まるものが草本しかない。増水時は冠水。	イタチキ川渡行、少しの増水でも通行不能。




N13	N14	N15
		
川渡り(20m)	ロープ場(高さ4m)	ロープ場(4m)
×	▲	▲
イタチキ川渡行、少しの増水でも通行不能	ほぼ垂直の崖	ほぼ垂直の崖




N16	N17	N18
		
沢越え(3m)	沢越え(2m)	沢越え(2m)
▲	▲	×
ロープ場の崖もあり、大雨時はロープ場が小さな滝になると思われる	沢越え後、30m川沿いを歩く	増水時、流れを渡る。大雨時は冠水。


N19	N20	N21
		
沢またぎ(1m)	ぬかるみ(10m)	ロープ場(高さ8m)
×	○	▲
大人の一步がやっと。大雨時は冠水。	—	大雨時、水が流れる

N22	N23	N24
		
川渡り(5m)	ロープ場(高さ4m)	川渡り(10m)
×	○	×
増水時、通行困難	—	増水時、通行不能

N25	N26	N27
		
ぬかるみ(1.5m)	沢歩き(5m)	川渡り(10m)
○	○	×
—	—	水の流れは緩やかだが、増水時は通行困難

N28	N29~N32	N33
		
沢越え(2m)	ぬかるみ(1.5m~100m)	沢またぎ(幅 1.5m、深さ 40 cm)
▲	○	○
増水時、流れを渡る	断続的に、ぬかるみが続く	成人の1歩がやっと

N34	N35	N36
		
沢またぎ(1.5m)	沢またぎ(1.5m)	ぬかるみ(1.5m)
○	○	○
		雨天時は沢

N37

ぬかるみ(2m)
○
雨天時は沢

まとめ

基準に従って抽出した結果、以下の 37 か所 (N1～N37) の難所が記録された。横断道の難所の大きな特色は、河川の横断やぬかるみに沿った歩行など、水場に関わる箇所が多いことが挙げられる。また、悪天候時には冠水や河川の急激な増水が起こる。

このようなことから、装備や登山計画などは、これらの難所情報を十分に把握し、登山時の天候と合わせて判断することが重要であると考えられる。

装備について特に注意すべき点は靴である。水場が多いため、通常の登山靴では水や泥で靴の内部や衣類が濡れてしまう。また濡れることを気にしてあるくと、転倒や滑落の危険が伴う。そのため、濡れることを前提に、普段履きなれた靴、あるいはフェルト底の沢靴などをガイドの方々には薦めている。また、長靴の場合は、増水時に長靴内部に水が入り込み、流れに足が取られるリスクもある。このようなリスクを想定し、登山計画を立てることが重要である。

大雨時や台風害などによる増水や倒木、崖崩れ等により、横断道自体のルートが頻繁に変わりうることも想定しておくことが安全上重要である。また、このような場所を無理して渡る際に最も危険が伴うため、横断道の利用に際しては、迂回ルートなどに詳しいガイドを同伴して利用することが推奨される。